

【インドネシア】復興ありがとうホストタウン 気仙沼市の取組

1 「ホストタウン」登録又は「復興ありがとうホストタウン」決定・登録に至るまでの経緯

平成15年より、商工会議所青年部が地域活性化の一環として、気仙沼みなとまつりで「バリパレード」をスタートしました。これまでに15回開催し、東日本大震災で一時休止していたものの、インドネシア共和国の全土からまつりで使う衣装や道具を支援していただいたことから、震災後は「バリパレード」から「インドネシアパレード」に改称し再開することができました。

平成23年6月にインドネシアのユドヨノ大統領ご夫妻が本市を訪問し、被災者を激励していただいたほか、東日本大震災からの災害復興資金として200万ドル（約1億6千万円）の寄付をいただきました。

寄付金は、地震の被害により建て替えが必要になった気仙沼図書館の建設費の一部として活用され、平成30年3月31日に開館、市民に広く利用されており、同館内の児童図書エリアは、「ユドヨノ友好こども館」と名付けられ、インドネシアからの震災復興支援の象徴としています。



平成30年3月31日に落成した気仙沼図書館

インドネシアとの友好の象徴「ユドヨノ友好こども館」

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、この支援への感謝と復興状況の発信、さらなる友好関係の構築のためインドネシア共和国を相手国として「復興ありがとうホストタウン」へ登録しました。

2 交流計画の概要

○大会開催前

- ・気仙沼みなとまつりに、インドネシア大使や競技関係者を招待し交流を図る。
- ・市内の小中学生とジャカルタの小中学生の間をインターネット回線で結びお互いの文化や歴史について学び交流を図る。

○大会期間中

- ・市内の小中学生と気仙沼在住のインドネシアからの技能実習生を対象にインドネシア選手団の応援ツアーと併せ、本市においてパブリックビューイングを実施。

○大会終了後

- ・インドネシア選手団や大会関係者を招き、市民やインドネシアからの技能実習生との交流会等を開催する。

3 これまでの取組、今後行おうとしている取組

本年は国交樹立 60 周年にあたり、6 月 23 日に恵比寿ガーデンホールで開催された大使館主催の記念コンサートにおいて、東日本大震災で支援を受けた市内の小学校児童が歌を披露しました。7 月 29 日には日比谷公園で開催されたインドネシアフェスティバルに、宮城県無形民俗文化財に指定されている浪板虎舞保存会が出演しました。

また、3 月 31 日の気仙沼図書館落成式、8 月 4 日・5 日に開催した気仙沼みなとまつりの際には、大使に気仙沼市へ来市していただいております。

10 月には市長がインドネシア共和国へ渡航し、政府関係機関やオリンピック委員会・パラリンピック委員会、競技関係団体等を訪問し、復興支援への感謝を伝えるとともに、支援により完成した図書館の児童図書エリアを「ユドヨノ友好子ども館」とし、インドネシアとの友好の証として市民に親しまれていることを伝え、大会後に選手関係者が気仙沼市を訪れていただけるよう働きかける。

4 今後の取組への課題、国等への要望

- ・他のホストタウン・ありがとうホストタウンの事業事例の紹介
- ・相手国へ渡航する際の担当職員の随行、相手国との事前調整
- ・相手国の在日大使館を訪問する際の随行
- ・応援ツアーを実施する際の競技種目や日程等の情報提供及び観戦チケットの確保

別紙（添付資料）

気仙沼とインドネシア共和国とのつながり

- ・ 気仙沼市の基幹産業である水産業とインドネシア共和国とは深いつながりがある。

◇遠洋近海マグロ船等の漁船員

．．． 2018年 836名

◇水産加工場の技能実習生

．．． 2018年 212名

◇バリ島へ寄港している気仙沼船籍の漁船

．．． 年間 10隻

○このほか、気仙沼で水揚げされたヨシキリザメやカツオ等を使用したハラルに対応した魚肉ソーセージの製造工場が平成30年に完成している。